

圧倒的な支配力でソビエト連邦帝国「再興」への野望の実現を目指す ロシア連邦大統領 ウラジーミル・プーチン氏について

2023年3月 コンサルティング部 グエン・ルイ 453/325

ロシア連邦第2・4代大統領（2000年 - 2008年、2012年 - 現在）、ロシア正教会首席エクソシストであり、ヨーロッパではベラルーシのルカシェンコ氏（バイオナンバー442/336）に次いで2番目に長く現職の大統領を務めているプーチン氏。元KGBのエージェントであり、現在のロシア連邦の政治家の中だけでなく世界中にも特に大きな影響力を持っている政治家といえます。2022年2月24日、ロシア軍にウクライナの非軍事化を目的とした特別軍事作戦を承認し、ロシアによるウクライナへの全面的な軍事侵攻が始まり、世界に衝撃が走りました。「強いロシア」を誇示し、国民の愛国心に訴えて求心力の維持を図ってきたロシア連邦大統領のウラジーミル・プーチン氏についてバイオ分析しました。



2 6 2

5 1 6

1952年10月7日

ロシアのサンクトペテルブルクで生誕

1975年 ソビエト連邦国家保安委員会
(KGB)で勤務。

1999年 ロシア連邦首相に就任

2000年 第2代ロシア連邦大統領に就任

2008年 大統領を退任し、首相に就任

2012年 第4代ロシア連邦大統領に就任

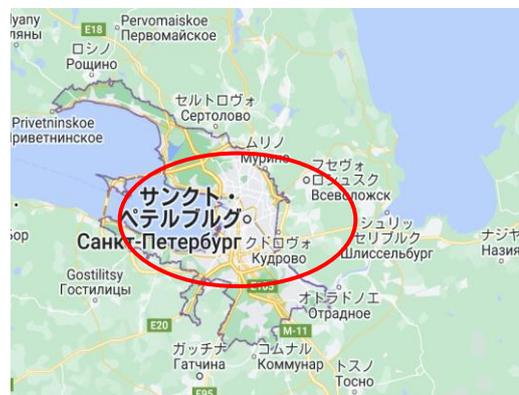
2018年 ロシア連邦大統領に再選
(第4期目)

2022年2月24日

ウクライナへの軍事侵攻を開始

プーチン氏の生い立ち

1952年10月7日、ソビエト連邦の一部であるロシア・ソビエト連邦社会主義共和国のレニングラード（現在のサンクトペテルブルク）に生まれました。第2次世界大戦はすでに終わっていましたが、レニングラードといえば、大戦でドイツ軍に900日にわたって包囲され、爆撃と飢えで多くの市民が犠牲となったところです。プーチン氏は両親が41歳の時に第三子として生まれていますが、そういった情勢も影響してか2人の兄はすでに1930年代に死亡していたため、一人っ子として育ちました。父親は活動に熱心な共産党員の無神論者で、母親は工場などで働く信仰心が



ロシア サンクトペテルブルク

深いロシア正教徒でした。父親はソビエト連邦海軍に徴兵され、独ソ戦（大祖国戦争）で傷痍軍人となり、戦後は機械技師としてレニングラードの鉄道車両工場で働いていました。

家庭環境はあまり裕福で無く、少年時代はレニングラードの共同アパートで過ごしました。1960年には共同アパートと同じ通りにある小学校に通い始めます。記憶力が抜群で頭の回転も速かったプーチン氏ですが、学校では不愛想で、競争心が強い少年でした。また、レニングラードは治安が悪く、**ギャングも多い町でした。小柄ながら負けん気の強いプーチン氏が生き延びるには、何か武器になるものが必要だと考え、12歳になるとロシアの格闘技サンボを習い始め、続けて柔道に取り組んでいきます。熱心でまじめな少年だったため、18歳になるころにはすでに黒帯を取得しており、国内のジュニア大会で3位になったこともありました。**危険な世界では自信のよりどころが必要であり、プーチン氏にとっての柔道はその一つでした。若いころから、いざ戦わなくてはならない時には、「まず一発目はこちらから攻撃を仕かけなくてはならない。しかも敵が二度と立ち上がれないよう、強力な一発を浴びせる必要がある」と考えており、その意識が柔道家としても知られる強いプーチン氏を作り上げたといえます。

国家保安委員会（KGB）時代

やがてプーチン氏はスパイが登場する小説や映画をきっかけに、「1人のスパイが、何千人もの運命を決められる」と考え、**スパイに憧れを抱き始めます。当時、スパイといえば、ソビエトの情報機関・秘密警察、また軍の監視や国境警備も担当するKGBが揺るぎない存在でした。自分もスパイになれるかもしれないとKGBへの就職を考え、14歳の時にKGB支部を訪問。対応した職員にどうすればKGBに就職できるのか質問しました。**職員はその質問にきわめて真摯に対応し、KGBは自ら志願してきた者を絶対に採用しないため、今後は自分からKGBに接触してはならないこと、大学の専攻は法学部が有利であること、言動や思想的な問題点があってはならないこと、スポーツの実績は対象者の選考で有利に働くことなどの現実的な助言を与えてくれました。**プーチン氏は以後、柔道に打ち込み、レニングラード大学では法学部を選択。在学中も自分からはKGBに接触しませんでした。**そして、大学4年時にKGBからのリクルートを受け、念願が叶ったプーチン氏は1975年に同大学を卒業後、KGBへ就職。KGB職員であるためにはソビエト連邦共産党への入党が条件だったため、プーチン氏は共産党員になっています。



KGBの制服を着たプーチン氏

KGBでは最初にレニングラード支部事務局、その後訓練を経て対諜報活動局に配属されました。そして、外国で諜報活動を行うためにKGB赤旗大学で学び、1985年に東ドイツのドレスデンへと派遣され、東ドイツには1990年まで滞在。ソビエトに対抗するために、アメリカを中心に構成された軍事同盟の北大西洋条約機構（NATO）をはじめとした政治関係の情報を集める諜報活動に従事しました。

KGB に就職するという目標に対して、自分に足りないものを勉強し、とにかく努力を続けて、積極的に行動していたプーチン氏。成功の始まりともいえる KGB への就職というチャンスをつかむことができた点に、「6」の特性が強く表れています。

政界の道へ

東西ドイツが統一し、ソビエト連邦が一気に崩壊に向かう 1990 年。プーチン氏はレニングラードに戻り、母校のレニングラード大学に学長補佐官として勤務。この頃にプーチン氏は大学の恩師だったサブチャーク氏（バイオナンバー521/251）と出会います。1991 年、サブチャーク氏はサンクトペテルブルクの市長に当選すると、信頼しているプーチン氏を対外関係委員会議長に任命。実務ができ有能だったことから、着々と昇進し、国際経済協力担当の副市长として起用されます。これが人生を変える大転機となりました。



サンクトペテルブルクの副市长時代のプーチン氏

1996 年にモスクワに移り、エリツィン初代大統領（バイオナンバー532/246）の政権に参加。そして、KGB の後身である連邦保安局（FSB）長官などを経て、1999 年には当時のエリツィン大統領によって首相に抜てきされます。そして、エリツィン大統領から後継者に指名され、2000 年の大統領選挙で初当選しました。

目標とした KGB からスカウトを受けるほどにまで自身を鍛え上げたプーチン氏は、サブチャーク氏の補佐として始まった政治家の道でも同様に、最高地位である大統領まで自らを高めてきました。人とのつながりの中から拡大・発展を望んでいき、自力で成し遂げる点に、「6」の特性が発揮されています。

ロシアの最高権力者

大統領に就任してまず政策として打ち出したのが「安定」と「愛国心」でした。経済改革を実行し、未払いだった国民への年金の支払いを再開。10 年で GDP を倍にするという計画も打ち出しました。この計画は資源高が追い風となり、わずか数年で実現しました。

2 期目となる 2004 年ロシア連邦大統領選挙に 70%以上の圧倒的な得票率で再選。再選後の同年 9 月にベスラン学校占拠事件^{※1}が発生したことからロシアの国家統一の必要性を理由として、地方の知事を直接選挙から大統領による任命制に改め、より一層の中央集権化を進めることで、大統領権限を強化しました。2006 年に旧ソビエトの債務を完済すると、国際社会に対しても強いロシアを打ち出していくようになります。

^{※1} ベスラン学校占拠事件とは、2004 年 9 月 1 日から 9 月 3 日にかけてロシアの北オセチア共和国ベスラン市のベスラン第一中等学校で、チェチェン共和国独立派を中心とする多国籍の武装集団（約 30 名）によって起こされた事件です。

最初の大統領在任中、ロシア経済は8年連続で成長し、購買力平価で測定したGDPは72%増加、実質所得は2.5倍、実質賃金は3倍以上、失業と貧困は半減以上と、ロシア人が自己評価する生活満足度は大幅に上昇しました。

ロシアの輸出の大部分を占める原油価格・ガス価格が5倍になったこと、共産主義後の恐慌や金融危機からの回復、海外投資の増加、慎重な経済・財政政策の結果です。

2008年には「連続2期まで」と定めた憲法に従い、大統領選に立候補せず、首相に就任しました。首相就任により第3代メドヴェージェフ大統領（バイオナンバー314/464）との二頭体制となりましたが、プーチン氏は大統領を退いた後も事実上最高権力者として影響力を行使していると見なされました。

2000年に制定していた連邦管区大統領全権代表は代表権を失って首相のコンサルタント的な地位になり、さらに大統領による任命制に改められていた地方の知事を国家公務員にして首相の管轄下に置きました。2008年11月5日にメドヴェージェフ大統領が年次報告演説を行い、その中で大統領の任期を4年から6年に延長することを提案したため、プーチン氏の大統領復帰説が流れ始めました。



大統領1～2期目に高い成長率を記録した

ロシアの勢力圏の拡大

2012年3月、ロシア連邦大統領選挙で約63%の得票率で当選しました。3期目の大統領時代には、2014年初頭、ロシア系住民の保護を理由に、ウクライナへロシア軍を投入し、国際的にウクライナの領土と見なされているクリミア半島を構成するクリミア自治共和国・セヴァストポリ特別市をロシア連邦の領土に加えます。これは、1991年のソビエト連邦崩壊・ロシア連邦成立後初の、ロシアにとって本格的な領土拡大となりました。



周辺国に圧力をかけ続けているロシア

2013年、アメリカ合衆国の経済誌『フォーブス』が毎年年末に発表する「世界で最も影響力のある人物」ランキングにおいてプーチン氏は世界ナンバーワンとなりました。この記録は2016年まで続き、4年連続世界で最も影響力がある人物に選ばれました。

そして、2018年3月18日の2018年ロシア連邦大統領選挙では得票率76%で圧勝し、任期満了は2024年となりました。プーチン氏政権下では、パイプラインの建設、衛星測位システムGLONASSの復旧、2014年ソチ冬季オリンピックや2018年FIFAワールドカップなどの国際イベントのためのインフラ整備などが進められました。

2022年ロシアのウクライナ侵攻

プーチン氏は2022年2月24日、ロシア軍にウクライナの非軍事化を目的とした特別軍事作戦を承認し、ロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。もともと30年前まで、ロシアもウクライナもソビエトという国を構成する15の共和国の1つでした。ソビエト崩壊後、15の構成国は、それぞれ独立して新たな国家としての歩みを始めました。しかし、ソビエト崩壊から30年たっても、ロシアにとってこれらの国は、まだ同じ国だという意識が強く、プーチン大統領はウクライナを“兄弟国家”と呼び、「強い執着」があると公言しています。

ロシアと隣接するウクライナ東部はロシア語を話す住民が多く暮らしており、ロシアとは歴史的なつながりが深い地域です。“同じルーツを持つ国”と位置づけるウクライナに対して、プーチン政権はこれまでも、東部のロシア系住民を通じて、その影響力を及ぼそうとしてきました。これは「6」の特性である支配力が強く表れています。

ロシア寄りと米欧寄りの政権が交互に入れ替わりながら、ロシアを刺激しないように中立を保っていたウクライナ。2014年に親ロシア派のヤヌコヴィッチ大統領（バイオナンバー666/112）がEU（欧州連合）との関係強化を目指す連合協定の準備凍結を発表したことへの抗議運動に端を発し、同大統領の政権は崩壊に追い込まれました。それ以降、プーチン氏は頻繁に、ウクライナは過激派に乗っ取られたと非難していました。また、ウクライナにNATOへの加盟は絶対しないことと何度も警告しました。ところが、ロシアと「兄弟意識」を持たない元コ

メディ俳優のウクライナのゼレンスキー大統領（バイオナンバー426/352）は、「自分たちはEUにもNATOにも入る」と宣言。なお、2008年にNATOはウクライナの将来的な加盟を支持し



ウクライナに侵攻したロシア軍



主戦場はロシアが合併を宣言したウクライナ南部・東部4州になっている

ていると表明しています。プーチン氏は NATO への加盟を希望するウクライナの政権を“同じルーツを持つ国”に誕生したアメリカ寄りの“かいらい政権”と捉えています。

NATO といえば、ソビエトが崩壊すると、もともと共産主義圏だった国々に民主主義を拡大し、いわば政治的な役割も担うようになりました。ロシアはこれまで、西側から陸上を通して攻め込まれてきた歴史があるため、安全保障の観点から、東欧諸国を“緩衝地帯”だと考える意識が強いです。そのため、NATO の“東方拡大”に強い抵抗感があり、東欧諸国が NATO に加盟することも、東欧諸国に軍事施設を設けることも望んでいません。また、NATO は毎年、リトアニアや黒海のルーマニア沖などの、ロシアとの国境に近い地域で実弾発射演習や上陸演習を行っており、ウクライナとウクライナ国内で共同軍事演習も実施しました。



1991年時点	米、英、仏、独、トルコなど16カ国
99	チェコ、ハンガリー、ポーランド
2004	バルト3国、スロバキア、スロベニア、ブルガリア、ルーマニア
09	アルバニア、クロアチア
17	モンテネグロ
20	北マケドニア、計30カ国に

ソビエト連邦崩壊後に東方に拡大した NATO

ウクライナが NATO に加盟した場合は、ロシアとの国境近くにミサイルが配備される可能性が高く、そうするとモスクワまで約 700 キロメートルしかないのです。アメリカもすでにポーランドとルーマニアに弾道ミサイル、迎撃ミサイルの発射システムを配備。この発射システムはモスクワを標的とする中距離弾道ミサイルの発射が可能で、もし発射されれば、モスクワには 7~8 分で着弾します。その配備に対してはロシアが強く抗議しましたが無視されました。ロシアとしては、かつての勢力圏が西側にどんどん削り取られているという危機感があり、ウクライナやベラルーシを緩衝地帯とするために、NATO への加入を絶対に阻止したいのです。

また、2021 年 12 月はプーチン氏がアメリカの **バイデン大統領(バイオナンバー426/352)** に「これ以上 NATO をロシアとの国境に向けて東に拡大しない」ことを要求し、「ロシアのレッドラインはウクライナにも適用される」と伝えましたがバイデン氏は返答しませんでした。それに加え、「モスクワをターゲットを可能とするミサイルを、ロシアと国境を接する国に配備しない」「NATO や米英などの国はロシアとの国境近くで軍事演習を行わない」「NATO の艦船や軍用機は、ロシアとの国境から一定の距離を保つ」「ヨーロッパに中距離核ミサイルを配備しない」などを保証する条約を結ぶよう求める内容をアメリカと NATO に送りましたが、両者とも返答しませんでした。1990 年にアメリカの **ベーカー国務長官(バイオナンバー464/314)** が **ゴルバチョフ書記長(バイオナンバー532/246)** に NATO を東に拡大しないという趣旨の約束をしましたが、プーチン氏は、NATO はその約束を破ったと批判。こうした背景に加えて、国防上の観点と愛国心が強いプーチン氏はゼレンスキー氏の発言を許すわけにはいきませんでした。そのため、**ロシアが「安心して発展し存在」すること**

ができないと主張し、ウクライナが常にロシアにとって脅威だとして戦争を始めました。ロシアの国民に対して、ウクライナで始めたのは「特別軍事作戦」であり、目的は「非ナチス化」と NATO の範囲がロシアと国境を接するまで拡大するのを阻止することだと説明。これまで、チェチェンの武力侵攻、ジョージア侵攻やクリミア併合などで国民の支持率を大きく上昇させましたが、軍事力を主張することや多くのジャーナリストが死亡・行方不明となっていることなどは、プーチン氏の排他的かつ独裁的な面も表れています。

ロシアがウクライナに侵攻を始めてから丁度 1 年。国際的な非難や米欧などの対口経済制裁を受けているにもかかわらず、ロシアは徹底的に勝利するために戦争をまだ続けています。これは「6」の「必ず結果を出す」特性が強く表れています。

一方、ゼレンスキー氏はこれまでアメリカ、イギリス、フランスなどの NATO、EU の各国の最高指導者と会談し、軍事支援を求めました。イギリスの**スナク首相**（バイオナンバー 622/156）、イタリアの**メローニ首相**（バイオナンバー 341/431）、フランスの**マクロン大統領**（バイオナンバー 336/442）、ドイツの**シュルツ首相**（バイオナンバー 251/521）ら、各 NATO のメンバーはこれまで軍事支援を行い、さらなる支援の約束をしました。日本の**岸田首相**（バイオナンバー 123/655）も 2 月 20 日、ウクライナに対する 55 億ドル（約 7370 億円）の追加財政支援を実施すると表明しました。それに加え、アメリカのバイデン大統領が 2023 年 2

月 20 日、ウクライナの首都キーウを電撃訪問し、ゼレンスキー大統領と会談しました。両者は同じ 426/352 のバイオナンバーを持っていたため、お互いの理念や信念がわかりやすく、話し合いが順調に進んでいるようです。バイデン氏は、アメリカはウクライナが「必要な限り」支援し続けると約束しました。



バイデン米大統領（左側）と握手するウクライナのゼレンスキー大統領（右側）（2023/2/20）

ゼレンスキー氏は NATO、EU 以外にも支援を求めています。その中に、インドの**モディ首相**（バイオナンバー 644/134）とも電話会談を行いました。しかし、インドはロシアの伝統的な友好国であり、経済やエネルギー面で関係を維持したいため、ロシアへの明確な批判を避けています。ウクライナ戦争については中国の方針も注目されています。アメリカとの対立を深めながら、ロシアのウクライナ侵攻に明確な反対の立場もとらず、国連外交や経済などの面でロシアが孤立しないよう振る舞ってきた中国。つまり、ロシアの後ろ盾としての立ち位置を固めているとみられ、**習近平国家主席**（バイオナンバー 363/415）が数カ月以内にロシアを訪問し、プーチン氏と会談する計画を準備していると表明。ウクライナ侵攻の終結に向けた多国間の和平交渉を後押しする狙いで、核兵器不使用の重要性も改めて強調するといえます。トルコの**エルドアン大統領**（バイオナンバー 442/336）もプーチン氏に停戦を促しながら、ゼレンスキー氏にも仲介を申し出ています。一方で、ベラルーシのルカシェンコ大統領はロシアの強固な同盟者であり、プーチン氏の「特別軍事作戦」を支持しています。ルカシェンコ氏はベラルーシをロシアの侵攻の中継地として使わせてお

り、今後も再びそうする用意があると表明しています。さらに、ウクライナから攻撃を受ければ、ベラルーシの領土からロシア軍と共に戦争をすると強調しました。

プーチン氏は2月21日の演説で、米欧は「ロシア国境付近に軍事基地や秘密の生物研究所をつくっている」、ウクライナは「(我々の)歴史的な土地」と発表。米欧について「戦争を始めたのは彼らだ」「西側は19世紀から、今ではウクライナと呼ばれる歴史的な領土を我々から引きはがそうとしてきたのだ」と述べました。「安全保障を確保するために必要な課題を解決していく」と表明し、1年を迎える侵攻を継続する考えを強調しました。

ソビエト連邦を超大国へ導いたのはスターリン氏(バイオナンバー666/112)です。そのソビエト連邦崩壊を目の当たりにし、大国ロシアの復活を誓ったプーチン氏はスターリン氏を崇拜し、スターリン氏の影響を受けていると見られています。戦争での傷あとが大きく、平凡な家庭で生まれ育ったプーチン氏は勝利への思いがとても強く、目的の為に手段を選ばずいくらの犠牲を払ってでも勝利を勝ち取りたいという思いがあるのかもしれませんが。

『バイオナンバー262』の人は、現状に満足せず、コツコツと努力を積み重ねていく姿勢を持ち合わせています。そのため、人を取りまとめ、長い目で面倒を見て一人前に育てていき、ポス的存在として成功へと導きます。

経済が急降下した旧ソビエト連邦崩壊後のロシアを立て直して、国民の生活を豊かにし、経済を常に成長させてきたプーチン氏。ロシア、ウクライナ戦争が一層長期化する状況の中で、プーチン氏の行動、ウクライナの対応、そして世界各国の動きに今後どうなるか注目していきたいです。

【引用及び画像の参照元】

- ・ Wikipedia
- ・ 日本経済新聞
- ・ 毎日新聞
- ・ President Online
- ・ NHK 国際ニュースナビ

【登場各国の最高指導者のバイオナンバー リスト】

・ ロシア現大統領	プーチン氏	262/516
・ ウクライナ現大統領	ゼレンスキー氏	426/352
・ アメリカ現大統領	バイデン氏	426/352
・ ロシアの初代大統領	エリツィン氏	532/246
・ ベラルーシ現大統領	ルカシェンコ氏	442/336
・ ロシア第3代大統領	メドヴェージェフ氏	314/464
・ ウクライナ第4代大統領	ヤヌコヴィッチ氏	666/112
・ イギリス現首相	スナク氏	622/156
・ イタリア現首相	メローニ氏	341/431
・ フランス現大統領	マクロン氏	336/442
・ ドイツ現首相	シュルツ氏	251/521
・ 日本現首相	岸田氏	123/655
・ インド現首相	モディ氏	644/134
・ 中国の現国家主席	習近平氏	363/415
・ トルコ現大統領	エルドアン氏	442/336
・ ソビエト連邦初代閣僚会議議長	スターリン氏	666/112